11月 ちびっこの森通信 vol.204

令和4年11月1日

☆★今月のテーマ★☆

・秋の自然や恵みを喜び、関心をもって過ごしていく
・体調を整えて寒さに負けず、身体を動かしてしっかり遊ぶ

～今月の園内学習～

・足し算･･･5の段
・掛け算･･･5の段
・数字カード･･･1～20の数字
・食べ物カード･･･今月の旬な食べ物
・魚へんの漢字･･･「さば「むつ」
・木へんの漢字･･･「かき」「びわ」
・絵画カード･･･「スター」他
・歴史カード･･･「野口英世」ほか
・ひらがなカード･･･「さ行」
・国旗カード･･･パナマほか北アメリカ諸国
・地理カード･･･東京都および関東地方
・声に出して読みたい日本語･･･論語ほか
・英会話･･･動物、曜日、季節の種類

～行事予定～

・リトミック･･･8日〔年少〕
29日〔年中・年長〕
・体操教室･･･22日〔年少〕
18日〔年中・年長〕
・英語教室･･･15日
・身体測定･･･9日
・書道教室･･･10日・17日
・運動会･･･26日〔PM～〕
・避難訓練･･･11日
・お誕生日会･･･30日

♫今月の歌♫

◇まっかな秋
◆ドレミのうた

～保育のポイント～

今回も「しつけの知恵（心理学・多湖輝著）」の中から”自分の頭で考える習慣をつけさせる10の知恵”の一節をご紹介します。氏は各界の一流人の幼児期の体験を聞いた「幼児回顧」で共通するのが、幼児期に「おまえは頭がいい」「おまえは将来偉くなる」と言い聞かされて育ったことだと指摘しています。これは心理学で「暗示効果」と言われるもので、（言葉が持つとされる霊力の）言霊に通じるものです。身近の親御さんから「そんなに頭が悪いの」と言われて育つと、折角これから伸びようとする頭脳も萎み、本当に残念な結果を招きかねません。「お前が頭がいい」と逆の「悪い」という、この二つの言葉の違いがお子さんの将来を左右する鍵を握っているとも言えるものです。この自己暗示効果は、こどもの思考にも応用でき、「僕は自分で考えるよ」「自分でやるよ」と心の中で漠然と思うより、言葉に出すことにより、より明確に自分の態度が規制されるというものです。自立の一歩の取組みとして参考になれば幸いです。

さくら組だより

時折、顔を見せる残暑に季節感なかったのに、このところの朝夕の冷え込みはめっきり秋が感じられるようになってきました。こどもたちからも戸外で「あの木の下に赤色の葉っぱがあった」や「どんぐりがた～くさん」と秋発見の報告があります。今月、その流れで「どんぐり拾い」を予定しており、どんなものが収集できるのか、今から楽しみな限りです。先月のビックイベントは植物公園に親子遠足をし、園とはまた違い、家族団欒でリラックスした笑顔や様子が良かったです。それにコスモスやバラなどの観覧で心が和み、アスレチック遊具で大胆に遊び、最後はしっぽ取りゲームで大いに身体を動かし、充実した一日が過ごせたのは何よりでした。また、佐伯警察署の方に来ていただき、交通ルールの再確認と徹底をする場を設けました。普段、戸外で身近な事とは言え模擬信号を見て、左右の安全確認をして手を挙げて渡る基本動作の再確認は大切ですね。他にも、園に不審者が着た際の保育従事者の対応では私服警官の迫真の演技で多少、涙ぐむ子もいたりで大変でしたが、これもいい体験として今後に生かしていきたいと思います。 今月は、運動会が予定されていて、こどもたちの成長した姿が見ていただけるようにこどもたちも練習に日々、取り組むことでしょう。どうぞお楽しみになさって下さい！

ひまわり組だより

移ろう季節が自然との触れ合いで感じられるようになってきました。こどもたちに人気の鬼ごっこに加え、この時期ならではの「どんぐり拾い」が新たなブームで活発な自然探索が日課となっているようです。 先月のリトミック教室では、ハロウィーン行事にあやかり、スカーフを頭に被り、ピアノの幻想的なリズムに合せて頭を左右にユ～ラユラと揺らし、お友だちの前でパッとスカーフを取り吃驚させるというリズム遊びが好評でした。 また、四分音符や八分音符を上手に聞き分けながら手を叩いたり、動物に変身して歩いてみたりと音遊びを存分に満喫している姿が見られました。これはきっと普段から何やら口ずさむ様子が散見され、音楽好きが高じた結果だと思いますので次回も楽しみな限りです。最近　昼食では「ばっかし食べ」から「（万遍なく）三角食べ」を意識し、ご飯、おかずとお汁ものをバランスよく食べ進めるようにし　その結果、味覚も淡白なものから旨味、甘味や辛味などが絡み合って味覚が豊かになり、より食事が楽しくなり、食べムラが少なくなってきているような感じがしますので引き続き取り組みをよく見ていくようにします。

ゆり組だより

「読書の秋」ならぬ就学期に向けた生活リズムへの移行と定着を兼ね、お昼寝時間にひらがなや数字の書き順などをなぞり書きシートをして過ごすようになった年長クラスです。また、ワークシートでは数の勉強など基礎的な勉強にも取り組むようにしています。名前欄に自分の名前を書くのも段々と様になってきているように感じます。そんなこんなで、書道教室での練習ノートではまず自分の名前を書くのに積極的になっていますし、識字率も上り、読み書きが順調なのも何よりとなっています。とはいっても、生活リズムの移行がスムーズかと言えば、左にあらずで夕方の帰りの会あたりでカ尽き、そこかしこでウトウトとお眠タイムが始まっているもの致し方ないこと。これからゆっくり時間をかけ、来春までに定着できればと思います。その他、年長児が就学期に向けて取り組んでいるのが鍵盤ハーモニカと絵の具活動です。最初こそ、「むずかしい」や「できん」といった弱音のような声も、回を重ねる毎に段々と要領を得ていき、今や聞こえてくるのは「次は何するの？」や「楽しい！」と180度違う意見や感想が聞かれるのが頼もしいと感じています。就学期にはこのような読み書きに加え、対人関係面でも本格的な関わり合いが始まりますので友だち同士で楽しみ、場合によっては仲たがいの際は「手」ではなく「言葉」で思いを伝え、それを受け止め、関係を調整していくといったことも学んでいくことが求められるので、今後もよく見守っていくようにしていきたいと思います。

給食室だより　～再考、和食文化の良さ～

昨今、日本人の「食の欧米化」が進む一方、2013年末に「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録され、世界で「和食」への関心が高まり、海外から逆に「（健康的な）日本食」に熱い視線を注がれているのは誇らしい反面、（日本人の食の欧米化の動きには）複雑な気持ちです。和食とは、日本の風土や社会で発達してきた精進料理や懐石料理の他、お正月のおせちなどの年中行事に合わせて伝統的に食されてきた家庭食をも含む食文化の総称と言われています。お肉などの動物性脂肪の多い欧米の洋食は血中に大量の糖を脂肪細胞に蓄えるために肥満体型に陥りやすく、体質的に欧米人はインスリン抵抗性があるのに比べ、日本人は少ないことから糖尿病のリスクが高まる要因とされています。ところが、和食は①蒸す、焼く、煮るなどの調理法で油分を抑え、旬の食材で栄養価が高くなり、②味噌や納豆などの多彩な発酵食品と”一汁三菜”の組合せから見た目もそうですが、何よりもビタミン、ミネラルや植物繊維をバランスよく摂取でき腸内環境を整え、③煮干し・昆布に椎茸等のだしの旨味で塩分を抑えられる等の効能から日本人の健康維持増進に役立ってきたのは間違いのないところだと思います。日本に古くから伝承されてきた和食の良さに再認識すると共に、園の給食の献立に取り入れていき、こどもたちに和食の魅力を感じてもらえるようにしていきたいと思います。